

税金があるからできること

愛媛県立宇和島南中等教育学校 3年 山本 和奏

私が住んでいる町、吉田町はみかんの生産量も優しくて温かい人も多く、町全体がオレンジ色に包まれているような自慢の故郷である。

私の祖母と父は兼業農家だ。土・日曜日は必ず山に行き、みかん作りを一生懸命頑張っている。収穫時期になると毎年、私は姉や妹、母と一緒によくお手伝いに行く。

二年前の冬、例年通りお手伝いに行った。その年は西日本豪雨があり、みかんの木がなくなっている所がいっぱいあった。

「今年は木がなくなったし、あんまりみかんとれんかったけん、残念やね。これからもみかん作り続けるん？」

と私は父に聞いてみた。すると、

「続けるに決まっとんやん。大変やけど今年、補助金もらって助かって、今年はダメやったけど来年頑張るんやで。」

とニコニコしながら父は言っていた。このとき、“補助金”のことについてあまり気にならなかった。

先日、市役所の方を講師に招いて租税教室を行った。税金があるから当たり前の暮らしができることや納税の大切さを知り、とても勉強になった。そこで気になったことがあった。それは“補助金”的ことについてだ。二年前の西日本豪雨の際、父は「補助金があつて助かった」と言っていた。何の補助金だったんだろう？と思って調べると、“災害補助金”というものだった。それがあってみかん作りを続けることができたから感謝している。そして、このような所にも税金が使われているのを知りびっくりした。

物を買うと必ず消費税を払わなければならない。今まででは、消費税なんていらないのに、税金なんてなくなった方がいいのにと思っていた。しかし、税金のおかげで私たちの生活は助けられていることを知った。だから今はたくさん働いて税金を納めている父や母、消費税で僅かながらも税を払っている自分を少し誇らしく思っている。

私は三年後、十八歳になり選挙権が与えられる。大切な税金の使い道を決める政治家を決めなければならない。そのときの私の一票は、一人ひとりの暮らしをよりよいものにしようと考えている人を選びたいと思う。

学校で勉強ができること。町にごみがないこと。図書館で本を借りること。いろいろ私たちの生活は税金によって成り立っている。私は将来、仕事をしてたり母親になっていたりするだろう。当たり前のことだが、納税をきちんとして社会に貢献する人になってみたい。安心して不自由なく過ごせる日常に感謝して、大人になったとき社会を形成している一人の人間として税金を納めたい。